

2021年(令和3年) 1月3日(日)

第97回箱根駅伝号外

発行：創価大学企画広報課

〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236 TEL042-691-9442



第97回東京箱根間 往復大学駅伝競走
 快挙だ。わずか4回目の出場
 で創価大学が総合2位でゴール。惜しくも総合優勝は逃したがスローガンの「もう一花咲か創価」の大輪に近づいた。往路優勝という偉業の達成は来年のさらなる活躍を約束してくれた。届かなかった総合優勝へ、新しい戦いが始まっていく。

昨年9位から一気に総合2位!

来年こそ大輪咲かすゾ

1位	駒澤大学	10時間 56分 04秒
2位	創価大学	10時間 56分 56秒
3位	東洋大学	11時間 00分 56秒
4位	青山学院大学	11時間 01分 16秒
5位	東海大学	11時間 02分 44秒
6位	早稲田大学	11時間 03分 59秒
7位	順天堂大学	11時間 04分 03秒
8位	帝京大学	11時間 04分 08秒
9位	國學院大学	11時間 04分 22秒
10位	東京国際大学	11時間 05分 49秒
11位	明治大学	11時間 06分 15秒
12位	中央大学	11時間 07分 56秒
13位	神奈川大学	11時間 08分 55秒
14位	日本体育大学	11時間 10分 24秒
15位	拓殖大学	11時間 10分 47秒
16位	城西大学	11時間 11分 20秒
17位	法政大学	11時間 13分 30秒
18位	国士舘大学	11時間 14分 07秒
19位	山梨学院大学	11時間 17分 36秒
20位	専修大学	11時間 28分 26秒
OP	関東学生連合	11時間 18分 10秒



【写真：日刊スポーツ/アフロ】

惜しくも総合優勝は逃したが、4回目の出場で見えた。大学創立50周年を祝う快挙となった。1区から区間3、6、3、2、2という安定したレース運び、総合3位の目標、3強一角崩しは最高戦力であれば3強押しも可能だ。往路3位は十分の結果となった。榎木監督は「誰がヒーローではなく狙える」と力強く話した。今年はコロナ禍で対外試合やロードレースの中止が相次ぎ、出雲駅伝は中止、全日本も残念ながら本戦を逃した。しかしその分箱根への思いは日を追って強くなり、選手は強化合宿等で着実に力をつけて自己ベストを更新し続けていた。競技の数も少なく、他校との比較は難しかったが榎木監督の気持ちは思いがけず変わっていった。迎えた本戦、無観客という異例の状況でレースが始まった。1区から好位置をキープ、4区で先頭に立ち向かい風の山登りものもせず、鍛えられた精神力を発揮して出場4回目まで往路優勝を成し遂げ

【選手写真提供：アフロ】

1区 大手町～鶴見 21.3km | 2区 鶴見～戸塚 23.1km | 3区 戸塚～平塚 21.4km | 4区 平塚～小田原 20.9km | 5区 小田原～箱根 20.8km



福田 悠一
 フクダ ユウイチ
 法学部4年 鳥取県出身 米子東高校

1時間03分15秒 区間順位 3位
 個人目標5位以内で走ると決めていました。それが達成できてホッとしています。冷静にレースの状況を見ながら、ずっと我慢し、レースが動いたら食らいついていくと決めていました。これまで支えてくれた方へ自身の走りをお届けするように、最後の1秒まで絞りきって強い気持ちで臨みました。故障が多くて思うように走れない時もありましたが、今日は、自分の全てを出し切ることができました。



フリップ・ムルワ
 フリップ・ムルワ
 経済学部2年 ケニア出身 主クボイス高校

1時間07分18秒 区間順位 6位
 3位で襷を受け取り、落ち着いて走るという気持ちと、必ず前に走る選手を抜いてみせると決めて挑戦しました。力のある選手も多く、自分のペースで走ることに集中しました。ラスト3キロの本当に苦しい時、榎木監督から「あきらめないで」と声をかけてもらい、乗り切ることができました。初めての箱根駅伝を2位で襷を渡すことができ、送り出してくれたケニアの家族にも結果を報告できることはとても嬉しかったです。



葛西 潤
 カサイ ジュン
 文学部2年 愛知県出身 関西創価高校

1時間02分41秒 区間順位 3位
 長い区間を序盤は落ち着いてレースを展開し、リズムを整えていきました。10キロ付近から本来の力が出せるようになりました。4区、5区に信頼する先輩がいたので、自分は前の選手との間隔を1秒でも詰めていけるように追いかけました。昨年は6区で悔しい思いをして、先輩方に助けってもらいましたので、今回は走ることができないチームのメンバーの分まで、自分がチームに貢献して、還元するんだと心に決めて走りしました。



嶋津 雄大
 シマツ ユウダイ
 文学部3年 東京都出身 若葉総合高校

1時間02分49秒 区間順位 2位
 まずは、このような社会状況の中で走ることができたことをとても嬉しく思っています。前を追い抜くのか、追いついて終盤で勝負するのか、判断するタイミングもありましたが、5区に何としても1位で繋ごうと力の限り走りました。後ろから追われる恐怖も、榎木監督から声をかけてもらい、落ち着くことができました。5区の直前に、左脚がつかれたのですが、叩きながら最後の登り坂も駆け抜けることができました。



三上 雄太
 ミカミ ユウタ
 文学部3年 広島県出身 遊学館高校

1時間12分05秒 区間順位 2位
 4区までの選手が、持てる力を十分に出し切り、良い流れで繋いでくれました。給水時、仲間会うと力がわき襷を最後まで持つていくことができました。風が強くて辛かったのですが、風の強い中での練習やこの1年間、自分がやってきたことを信じて走りました。前回大会を走れず、とても悔しい思いをしたので、初めて走る箱根駅伝で、創価大学の往路優勝に貢献でき、周りで支えてくれた方に感謝を伝えたいです。



濱野 将基
 ハmano マサキ
 法学部2年 神奈川県出身 佐久長聖高校

58分49秒 区間順位 7位
 トップを走るということでも緊張してはいたのですが、スタート前に鈴木主将から「しっかりやってきたんだから。自信を持って！」と声をかけてもらい、絶対に先輩のためにも走り抜こうと決めました。59分30秒で切れることを目標としていましたが、58分台で走れたので自身としては合格点だと思います。最後は脚がかなりきつかったのですが、この1年間、箱根で走れるように、練習を重ねてきたので、全て出し切りました。



原富 慶季
 ハラトミ ケイキ
 文学部4年 福岡県出身 福岡大滝高校

1時間03分12秒 区間順位 2位
 レースの鍵となると言われていた7区で、後続の選手を引き離す役割を果たすことができました。4年間の集大成の走りをすることができました。後半10キロ以降から風が出てきて、また上りもあり、苦しい中でしたが、懸命に走り続けました。榎木監督と共に、そして、ずっと切磋琢磨してきた同期と共に仲の良い駅伝チームを作ってきました。最後の1キロは、苦勞した練習などを思い出しながら駆け抜けました。



永井 大育
 ナガイ ダイスク
 文学部3年 鹿児島県出身 樟南高校

1時間05分10秒 区間順位 8位
 陸上人生で初めてとなる大きな舞台が、この箱根駅伝でした。緊張というよりも、楽しみの中で迎えることができました。追われる展開でしたが、自分自身の粘り強い走りに徹しました。前半落ち着いた走りことができ、監督からの声かけて緊張を解き、力むことなく後半の坂に挑むことができました。同じ目の病気を患っている嶋津をはじめ、仲間と励まして合せて繋いだ襷を、最後まで1位で走ることができました。



石津 佳晃
 イシツ ユシカズ
 文学部4年 静岡県出身 浜松日体高校

1時間08分14秒 区間順位 1位
 今回、前回大会と同じ区間を走ることとなり、昨年の経験を活かして、序盤からペースを上げて、最後まで粘る走りになりました。創価大学駅伝部に入部した当初は、自身が箱根路を走るなんて想像もしていませんでした。努力を継続して、また、仲の良いチームを目指して、ここまで来ることができました。今日は、自身の力を振り絞り、記録を残すことができました。



小野寺 勇樹
 オノデラ ユウキ
 経済学部3年 埼玉県出身 埼玉栄高校

1時間13分23秒 区間順位 20位
 9区までのいい流れを受け、落ち着いてスタートできましたが、思うように実力を発揮できませんでした。後半は自分の思っかいか聞こえていない状態でしたが、10キロ、15キロの給水ポイントで仲間会えて、頑張ろうというスイッチを入れることができました。ゴール後、鈴木主将が「小野寺、2位だぞ。俺たちの目標を達成することができたぞ」と声をかけてくれました。来年に向けて、さらなる練習を重ねて必ずリベンジします。

創立50周年に花添える!!



国内外からの
応援を力に



9区区間賞・石津佳晃 (写真提供・アフロ)

復路戦評 もに6区濱野将基がトップスタート。先頭を走る喜びを噛みしめるように順調に山を下る。終盤駒澤が驚異的な追い上げをみせるも、ラストを粘って1分8秒差で7区原富慶季に襷を渡す。

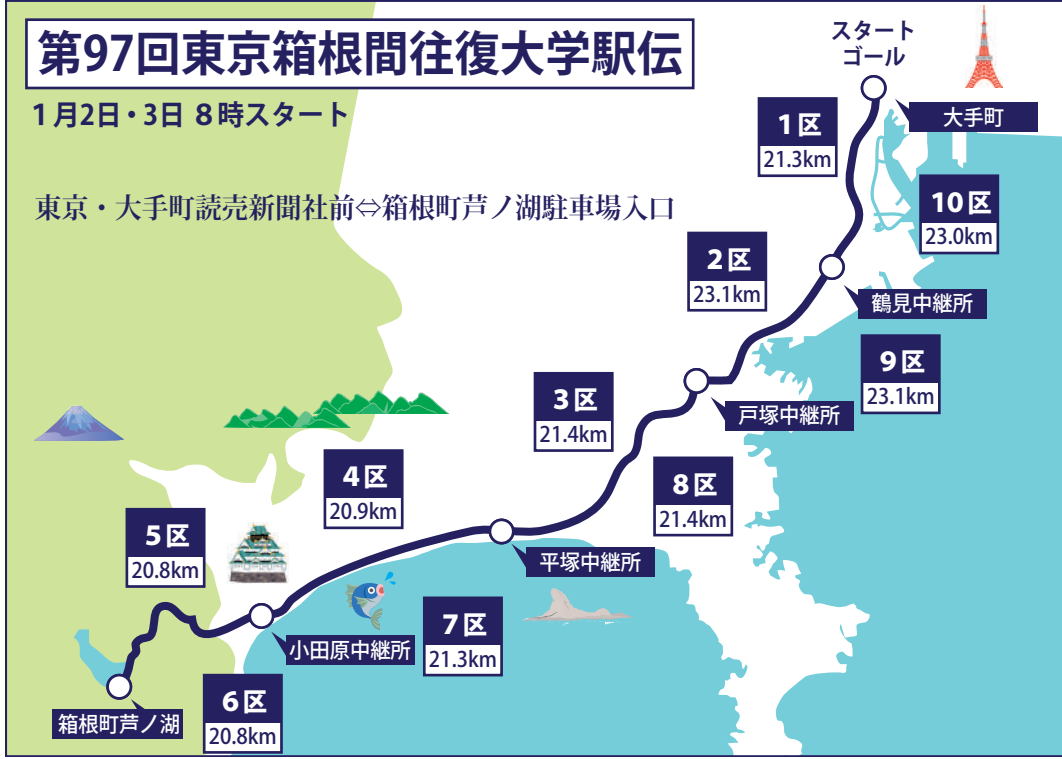
原富も昨年の経験を生かし、序盤落ち着いた走りを見せて、中盤から徐々に駒澤との差を広げていく。終盤も安定した走りは変わらず差はさらに開いていった。4年間の集大成の走りだ。

8区永井大育は特別な思いを胸に原富から襷を受ける。初めての箱根駅伝、湘南の海岸を走り抜けていく。遊行寺の坂で駒澤に詰められるも監督の激に応えて再びペースを上げる。首位をキープしたまま9区石津佳晃に繋ぐ。

石津は昨年も9区を走り初シド獲得の礎を築いた。そして今年、さらに進化した走りを見せてあっとい間に差を大きく広げていく。最後の駅伝、区間記録を破る記録で10区小野寺勇樹に総合優勝への襷を託す。

しかし駒澤の驚異的な追い上げの前に残りの2区で首位を譲る。それでも小野寺は懸命に走り続けた。

創価大学は、4回目の出場で大躍進の総合2位。夢は来年に持ち越された。



往路戦評 大事な流れをつくる1区を託された福田悠一は超入ローペースの中、中盤まで先頭集団につけて機をうかがう。集団は横並びのまま終盤へ。勝負どころの六郷橋で各校がスパート、福田は粘りに粘り先頭と18秒差の3位でフィリップ・ムルワに繋ぐ。2区ムルワは3位グループから7区付近で抜け出し1位を追求。9区付近で2位に上がるも前半のハイペースが影響したのか終盤でややペースダウン。それでも2位をキープしたまま3区葛西潤へ。

葛西はペースを守りながら機を見て8区過ぎて3位グループから抜け出し必死に前を追う。16区過ぎて2位に浮上。その後も安定した走り、4区嶋津雄大へ。嶋津は昨年の区間新記録の走りを再現するかのよう5・6区でついに先頭に立つ。その後もペースを上げて2位との差を開いていく。2位との差を1分42秒に広げて5区三上雄太へ。

三上は向かい風をもともしない前傾姿勢の安定した走り。追う東洋、駒澤を寄せつけない王者の走りだ。往路初優勝に向けて山を快調に登り、最後の下りへ。持てる力を振り絞りゴールを目指しラストスパート、そして歓喜のゴールテープを切った。

4回目の出場での往路優勝は初の快挙。大学創立50周年の年に最高の偉業を飾った。

走れることへの感謝を胸につないだ襷



写真提供: 日刊スポーツ・アフロ

応援があつての総合2位

鈴木溪太 主将

総合3位を目標にの1年間取り組み、総合2位という嬉しい成績を残すことができました。何より、素晴らしいチームメイトと一緒に競技生活を送ることに感謝しています。来年は、チームとしてさらなる躍進を期して頑張ります。応援ありがとうございました。

強豪校と上位で戦えるチームへ

榎木和貴 監督

走った選手が全力を尽くした結果が総合2位でした。当初の目標を達成でき、皆、素晴らしい走りでした。

最後の小野寺選手は、駅伝部チームの全員を代表して、箱根駅伝のゴールまで連れてくれました。今日の悔しい経験をバネに、全員で成長し、来年の箱根駅伝につなげたいと思います。今回は、選手の純粋な箱根で戦ったという気持ちが練習や私生活にあらわれて、このような結果につながりました。来年は、チーム全員が総合優勝を意識していきけるよう取り組んでいきます。焦ることなく地に足を付けて強化を継続し、新体制ではまず三大駅伝への出場を果たし、強豪校と上位で戦う力をつけ、「優勝を目指している」と堂々といえるようなチーム作りをしてまいります。

今回は、16名の登録選手以外の全部員が選手を支え、マネージャーの陰の支えもあって、チームが一つになって当日を迎えることができました。来年もまたチーム一丸となれるように頑張りますので、引き続き、応援よろしくお祈りいたします。

とても意味のある結果

瀬上雄然 総監督

コロナ禍にあつて制限がある中で開催された箱根駅伝を無事に走りきることができました。心から感謝申し上げます。皆様の応援が目標とした総合3位を達成することができ、本当に良かったです。これも意味のある結果だったと思います。来年に向けて「総合優勝」という目標を掲げることができました。

選手の執念の走りに感動

馬場善久 学長

往路優勝、そして総合2位の快挙、大変おめでとうございます。心より感謝を申し上げます。

「自分力の発見」を体現する選手の皆さんの執念の走りに、心より感動しました。選手をはじめ、2日間泊りにあたられた駅伝部、関係者の皆様、大変にお疲れ様でした。多くの感動を本当にありがとうございました。全国、全世界で応援していただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

50周年を飾る素晴らしい結果

田代康則 理事長

皆さんも、本当にお疲れ様でした。目標としていた総合3位以内となる総合2位、並びに往路優勝、誠にありがとうございました。創価大学創立50周年の本年を飾る素晴らしい結果となりました。

卒業生をはじめ、全国の支援して下さった皆様、テレビやラジオなどで応援いただいた皆様、本当にありがとうございました。